

2022年作成

学習に困難がある子どもの 診断と支援③

～発達性読み書き障害を中心に～

愛媛大学名誉教授(教育学部)
(兼)愛媛県立子ども療育センター

長尾秀夫

全体の内容

I. 診断編

学習の困難から、発達性読み書き障害まで

II. 支援編

学習の困難から、発達性読み書き障害まで

III. 学習障害、その他編

IV. 書字障害の診断と支援編

V. 算数障害の診断と支援編

学習に困難がある子どもの 診断と支援

Ⅲ. 学習障害、 その他編

目次

スライドページ

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 学習障害(LD)の診断 | — 5 |
| 2. LD関連するその他事項 | |
| 1) 認知検査等 | —29 |
| 2) 習熟度別指導等 | —43 |
| 3) LDがある人の成人期 | —52 |

読み障害とは？ (読字の障害)

315.00(F81.0) 読字の障害 (DSM-5より)

1. 不的確または速度が遅く、努力を要する読字

(例: 単語を間違っ**て**または**ゆっくり**とためらいがちに音読する。しばしば言葉を**当てずっぽう**に言う。言葉を**発音**することの困難さをもつ)

2. 読んでいるものの意味を**理解**することの困難さ

(例: 文章を正確に読む場合があるが、読んでいるものの**つながり**、関係、**意味**するもの、またはより深い意味を理解していないかもしれない)

(特徴的障害)

- 読字の**正確さ**
- 読字の**速度**または**流暢性**
- **読解力**

読字の障害の他の兆候 (NICHDより)

- ・他人の言っていることを理解するのが難しい
- ・質問や指示を理解することが難しい
- ・電話番号等を順番に記憶するのが難しい
- ・伝言でトラブルが生じる。
- ・話すのが遅い
- ・考えや感情を表現するのが難しい
- ・新しい単語(語彙)を学ぶのが難しい
- ・外国語学習でトラブルが生じる
- ・読み速度が遅く、声が大きくなる
- ・長い読書課題をあきらめる

読字の障害の支援期間 (NICHDより)

障害の程度と支援の質量で異なる。

- ・最低のセッション、1時間／回、2回／週。
- ・最適の場合、最大2時間／回、4～5回／週。

子どもの年齢、認知能力に見合った読みができるまで。
2～3年以上かかる場合がある。通常、数か月～数年。

子どもの読みの進歩は、子ども自身が判断する。以前
読むこと・綴ることができなかったが、自分なりに読める
ことが希望となり、努力し続ける動機となる。

専門家も支援前と比較して、継続的に評価して、学習
目標の成果を目に見える形式で本人、家族に伝える。

学習や文字の読み書きが気になる方へのアンケート

受診者氏名() 記入者:氏名() 続柄:母、父、その他()

下記の項目について、はい、いいえのどちらかに○をつけてください。 記入日(? 年 ? 月 ? 日)

気になる項目	はい	いいえ
1. 一字ずつのたどり読み(逐次読み)が続いている。		
2. 読み飛ばし、勝手読みが多い。		
3. 促音「っ」、拗音「ゃ、ゅ、ょ」が読めない。		
4. 見慣れない言葉や文章の区切りを間違える。		
5. 簡単な文は読めるが、今の学年の文章は読めない。		
6. 作文は平仮名が多く、片仮名や漢字が少ない。		
7. 質問に答えるのに時間がかかる。		
8. 読むのに時間がかかり、ひどく疲れる。		
9. 代読すると内容がわかり、問題が解ける。		
10. 加減乗除の筆算が難しい。		
11. 不注意が目立ち、突然勝手な行動をする。		
12. 自分の好きなことにこだわり、注意しても止められない。		
13. その他の気になることを書いてください()		

学齡児のための読み書きアンケート(IDA)

氏名: _____

記入日: 年 月 日

以下の質問に適当なものに○をつけてお答えください。

	全くない	少し	たまに	しばしば	常にある
1 書くことが困難である	0	1	2	3	4
2 文字の名前を学ぶのが難しい	0	1	2	3	4
3 文字を音読することが難しい	0	1	2	3	4
4 読むのが遅い	0	1	2	3	4
5 成績に比べて読み取りが遅い	0	1	2	3	4
6 読み書きに問題があり、学校で助けを必要としている	0	1	2	3	4

成人のための読み書きの自己評価 (IDA)

		はい
1	あなたは読むのが遅いですか？	
2	学校に通っていたときに読み方を学ぶのに苦労しましたか？	
3	意味を理解するのに、2～3回読まなければならないことがよくありますか？	
4	あなたは声に出して読むのが苦手ですか？	
5	読み書きをしているときに文字を省略したり、転置したり、文字を追加したりしますか？	
6	文字を書いた後に点検しても書き間違いがあると思いますか？	
7	新しい長い(多音節の)単語を発音するのは難しいと感じてますか？	
8	あなたは長い本や小説よりも雑誌や短い記事を読むことを選択しますか？	
9	学校に通っていた頃、外国語を学ぶのがとても難しいと感じましたか？	
10	多く読むことが必要な仕事の企画等に参加することを避けていますか？	

アンケートの判断基準 (IDA)

学齢児の判断基準: 加算した合計得点で、	
最小リスク	<10
中等度リスク	10~15
重大リスク	15<

成人のための読み書きアンケートの判断基準:

これらの質問の7つ以上に「はい」をチェックした場合、これは発達性読み書き障害を示している可能性がある。

専門家の相談または資格のある検査者の正式な診断評価を求めることを推奨する。

(注) 日本語でのデータはない。参考まで。

書き障害とは？ (書字表出の障害)

315.2(F81.81) 書字表出の障害 (DSM-5より)

1. 綴字の困難さ

(例: 母音や子音を付け加えたり、入れ忘れたり、置き換えたりするかもしれない)

2. 書字表出の困難さ

(例: 文章の中で複数の文法または句読点の間違いをする、段落のまとめ方が下手、思考の書字表出に明確さが無い)

(特徴的障害)

- ・綴字の正確さ
- ・文法と句読点の正確さ
- ・書字表出の明確さまたは構成力

書字表出の障害の他の兆候 (NICHDより)

- 書き込みや描画に対する強い嫌悪感
- 書き始めるとすぐにエネルギーや関心を失う
- 書いている間に大声で言葉を言う
- アイデアを書き留めるのに苦労する
- 論理的に考えを書くことが難しい
- 文法の間違が多い
- 文を書くときに単語を未完成のままにするか省略する

書字表出の障害の支援 (IDA)

最初、手書きの**準備活動**として、

- ・手の筋肉を強化する粘土遊び
- ・点や迷路の線結び
- ・人差し指や鉛筆の反対端で文字をなぞる
- ・文字を視写する

次に、**文字を書く**。

- ・書き順に従い文字を書く
- ・目印なしで文字を書く
- ・指示された文字を書く

学年が上がり、**作文**する。

- ・単語、文章を書く
- ・学習に出てくる単語を使って、自分の考えを書く。

学習や文字の読み書きが気になる方へのアンケート

受診者氏名() 記入者:氏名() 続柄:母、父、その他()

下記の項目について、はい、いいえのどちらかに○をつけてください。 記入日(? 年 ? 月 ? 日)

気になる項目	はい	いいえ
1. 一字ずつのたどり読み(逐次読み)が続いている。		
2. 読み飛ばし、勝手読みが多い。		
3. 促音「っ」、拗音「ゃ、ゅ、ょ」が読めない。		
4. 見慣れない言葉や文章の区切りを間違える。		
5. 簡単な文は読めるが、今の学年の文章は読めない。		
6. 作文は平仮名が多く、片仮名や漢字が少ない。		
7. 質問に答えるのに時間がかかる。		
8. 読むのに時間がかかり、ひどく疲れる。		
9. 代読すると内容がわかり、問題が解ける。		
10. 加減乗除の筆算が難しい。		
11. 不注意が目立ち、突然勝手な行動をする。		
12. 自分の好きなことにこだわり、注意しても止められない。		
13. その他の気になることを書いてください()		

学齡児のための書字アンケート

氏名: _____ 学年 _____ 年 _____ 記入日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

以下の質問に適当なものに○をつけてお答えください。

	全くない	少し	たまに	しばしば	常にある
1 文字の形が整わず、読みにくい	0	1	2	3	4
2 文字の大きさが整わない	0	1	2	3	4
3 文字の間隔が揃わない	0	1	2	3	4
4 文字が枠内におさまらない	0	1	2	3	4
5 制限時間内に書けない	0	1	2	3	4
6 板書を写すのに頻回に黒板を見る	0	1	2	3	4
7 文字を書くことを極端に嫌う	0	1	2	3	4
8 文字を書くとひどく疲れる	0	1	2	3	4
9 文法の間違が多い	0	1	2	3	4
10 自分の考えを書くことが難しい	0	1	2	3	4

算数障害とは？ (算数の障害)

315.00(F81.0) 算数の障害 (DSM-5より)

1. 数字の概念、数値、または計算を習得することの困難さ

(例: 数字、その大小、および関係の理解に乏しい、1桁のたし算を行うのに指を折って数える、算術計算の途中で方法を変更するかもしれない)

2. 数学的推論の困難さ

(例: 定量的関係を解くために、数学的概念・事実、数学的方法を適用することが非常に困難である)

(特徴的障害)

- 数の感覚
- 数学的事実の記憶
- 計算の正確さまたは流暢性
- 数学的推理の正確さ

算数の障害の他の兆候 (NICHDより)

- 算数関連の単語理解の難しさ
- 論理的順序の理解が難しい
(例: 算数を解く順序、アルゴリズム)
- 算数の解答の説明を理解することが難しい
- 現金取引の変更でトラブルが多い
- 行事の時間的順序の理解が難しい

算数障害の定義のいろいろ

熊谷、Jpn.J.Learn.Disabilit. 27:160、2018に追加修正)

分類	A.神経心理学的立場、成人の失算等	B.文部科学省の学習障害の定義(Kirkら)	C.A+Bの熊谷の定義(2012)	D.DSM-5の定義	E.私(長尾)の理解
数処理	数処理(数字、数詞の相互関係)	(一)	数処理(具体物・数詞・数字の対応関係)	(一)	数処理(具体物・数詞・数字の3項関係)
数概念	(一)	(一)	数概念(序数性、基数性)	数感覚	数概念(序数性、基数性、記号の理解)
計算	計算(暗算: 数的事実、筆算: 計算手続き)	計算する(計算式の計算)	計算(暗算、筆算)	数的事実の記憶 正確で流暢な計算	数的事実の記憶 正確な計算(筆算)
推論	(一)	推論する(文章題の解法)	数的事実(文章題解法)	正確な数的推論	正確な数的推論(文章題)

算数の発達

第1段階: 数処理～歌って数唱、指さして計数、数字と数詞の対応(具体物～数詞～数字の3項関係の形成)

第2段階: 数概念～序数性(数が順序を示す)、基数性(数が大きさを示す)

第3段階: 計算～暗算(指、物を使う?)20まで、筆算 20以上

第4段階: 数的推論～文章題

1. 問題理解過程

1) 変換過程(読み理解)

2) 統合過程(視覚的イメージ化)

2. 問題解決過程

1) プラニング過程(立式)

2) 実行過程(計算)

愛媛大学方式:

1. 音読

2. やりとり

3. 図や絵にする

4. 立式

5. 計算

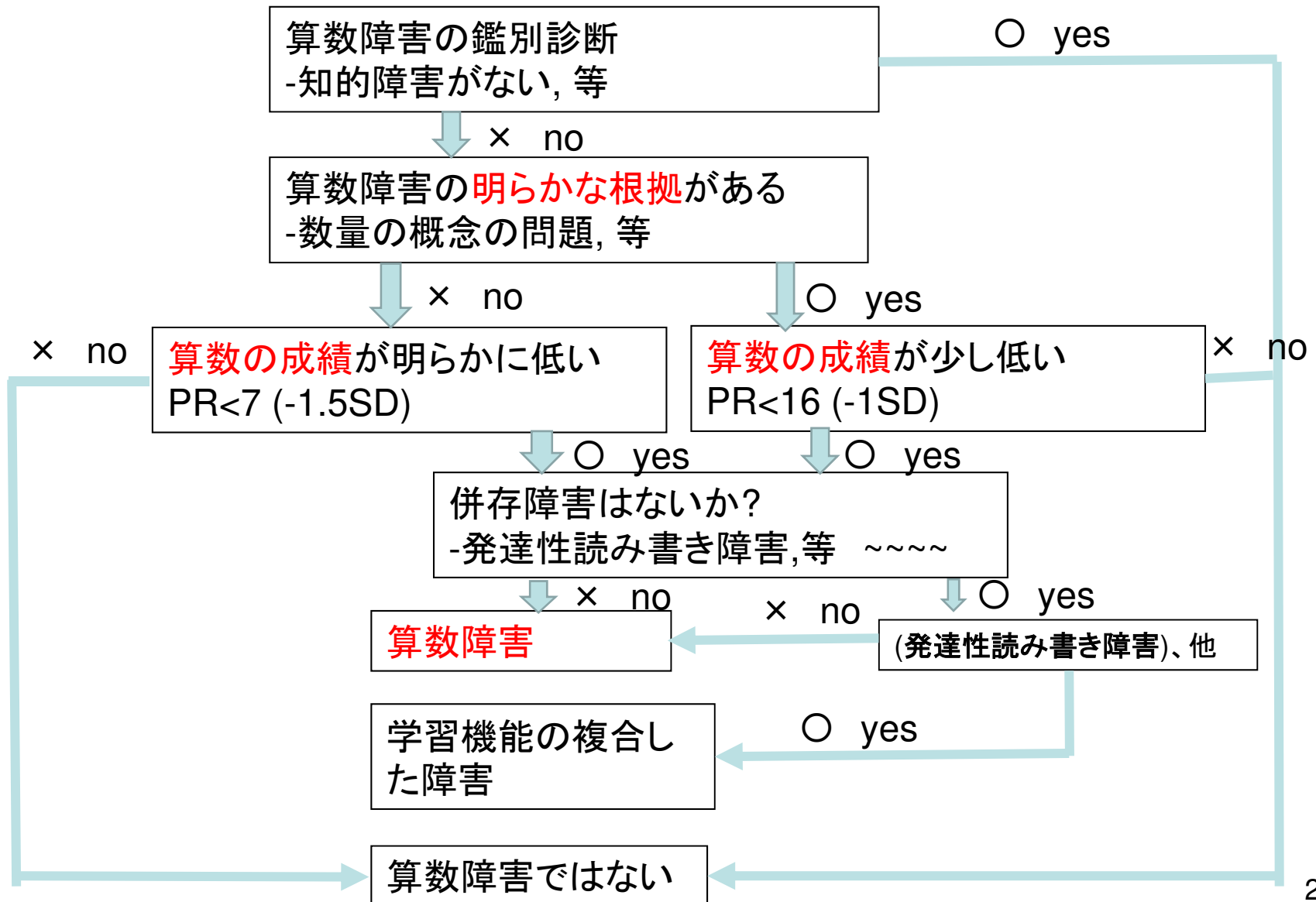
6. 答え

算数障害の年齢群別症状

(Neelkamal, et al .Transl Pediatr 7:48、2018の抜粋)

年齢群	症状
乳幼児期前半 ～就学前まで	・数を学ぶことが難しい ・分類することが難しい ・数と物とが一致しない ・数を聞いて覚えることが難しい
幼児期	・数えることが難しい ・サビタイジング(一目でわかる数)が難しい ・数の理解でもめ事が生じる
小学1～3年	・大小比較が難しい ・数的事実を学ぶことが難しい ・算数の解法の技能習得が困難である ・基礎的な足し算で指を使って計算することが続く ・算数の学習に不安がある
小学3～6年、 中学	・算数の勉強を正確にやり遂げることが難しい ・以前に出会ったやり方を思い出すのが難しい ・算数の問題の複数の段階を続けてすることが難しい ・実生活の出来事を算数の公式で理解することが難しい ・算数の学習に不安がある
高校	・算数の概念を毎日の生活に応用することに苦労する。金銭関連、速度や距離の見積もりなど。 ・測定の問題 ・グラフや地図から情報を把握することが難しい ・同じ算数の問題を違うやり方ですることが難しい ・算数の学習の不安がある

算数障害の診断アルゴリズム



学習や文字の読み書きが気になる方へのアンケート

受診者氏名() 記入者:氏名() 続柄:母、父、その他()

下記の項目について、はい、いいえのどちらかに○をつけてください。 記入日(? 年 ? 月 ? 日)

気になる項目	はい	いいえ
1. 一字ずつのたどり読み(逐次読み)が続いている。		
2. 読み飛ばし、勝手読みが多い。		
3. 促音「っ」、拗音「ゃ、ゅ、ょ」が読めない。		
4. 見慣れない言葉や文章の区切りを間違える。		
5. 簡単な文は読めるが、今の学年の文章は読めない。		
6. 作文は平仮名が多く、片仮名や漢字が少ない。		
7. 質問に答えるのに時間がかかる。		
8. 読むのに時間がかかり、ひどく疲れる。		
9. 代読すると内容がわかり、問題が解ける。		
10. 加減乗除の筆算が難しい。		
11. 不注意が目立ち、突然勝手な行動をする。		
12. 自分の好きなことにこだわり、注意しても止められない。		
13. その他の気になることを書いてください()		

学齡児のための算数アンケート

氏名: _____ 学年 _____ 年 記入日: 年 月 日

以下の質問に適当なものに○をつけてお答えください。

	全くない	少し	たまに	しばしば	常にある
1 算数の計算が著しく遅い	0	1	2	3	4
2 九九が覚えられない	0	1	2	3	4
3 筆算が難しい	0	1	2	3	4
4 算数の記号を理解、使用するのが難しい	0	1	2	3	4
5 算数の公式を使うことが難しい	0	1	2	3	4
6 図形、量と測定などの理解が難しい	0	1	2	3	4
7 算数の文章題の立式が難しい	0	1	2	3	4
8 算数の成績が他の教科より明らかに低い	0	1	2	3	4
9 算数が苦手で、学校で特別な助けをしてもらっている	0	1	2	3	4

2. LD関連するその他事項

LDの専門的支援者(NICHDより)

日本の職種では、

- 小児科医～小児神経科医
- 精神科医～児童精神科医
- 臨床心理士～学校／教育心理士
- 言語聴覚士
- 作業療法士
- 学校・教育カウンセラー

(巡回相談員)

知能・発達検査の適用年齢

知能・発達検査等	適用年齢
知能検査等:	
KABC-II 検査 (心理・教育アセスメントバッテリー)	2歳6カ月~18歳11カ月
WISC-IV 知能検査	5歳0カ月~16歳11カ月
WPPSI知能診断検査	3歳10カ月~7歳1カ月
田中ビネー知能検査 V	2歳~成人
DN-CAS (認知評価システム)	5歳0カ月~17歳11カ月
発達検査:	
新版K式発達検査2020	新生児~14歳過ぎ(成人)
KIDS乳幼児発達スケール	1カ月~6歳11カ月
遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	0歳~4歳8カ月
生活適応機能検査:	
S-M社会生活能力検査第3版	乳幼児~中学生

KABC-II 検査構成

尺度	Kaufman: カウフマンモデル	Cattell-Horn-Caroll: CHCモデル	検査名
認知 尺度	継次処理	短期記憶尺度	数唱、語の配列、手の動作
	同時処理	視覚処理尺度	顔さがし、絵の統合、近道さがし、模様の構成
	計画尺度	流動性推理尺度	物語の完成、パターン推理
	学習尺度	長期記憶と検索尺度	語の学習、語の学習遅延
習得 尺度	語彙尺度	結晶性能力尺度	表現語彙、なぞなぞ、理解語彙
	読み尺度	読み書き尺度	言葉の読み、文の理解
	書き尺度		言葉の書き、文の構成
	算数尺度	量的知識尺度	数的推論、計算

KABC- II 検査の各尺度

< 認知総合尺度 >

- 継次尺度 : 聞こえた順番に処理する力
- 同時尺度 : 見た情報を全体として見る力
- 計画尺度 : 課題を解決するための適切な方法の選択、実行する力
- 学習尺度 : 情報を学習する力、学習の定着

< 習得総合尺度 >

- 語彙尺度 : 語彙に関する知識
- 読み尺度 : 文字の読みや理解力
- 書き尺度 : 文字の書きや作文力
- 算数尺度 : 加減の計算や文章問題を解く力

KABC-II、WISC-IV検査構成

尺度	カウフマンモデル	CHCモデル	下位検査名	WISC-IV検査指標
認知尺度	継次処理	短期記憶尺度 (Gsm)	数唱、語の配列、手の動作	ワーキングメモリー (WMI)
	同時処理	視覚処理尺度 (Gv)	顔さがし、絵の統合、近道さがし、模様構成	知覚推理 (PRI)
	計画尺度	流動性推理尺度 (Gf)	物語の完成、パターン推理	
	学習尺度	長期記憶と検索尺度 (Glr)	語の学習、語の学習遅延	—
習得尺度	語彙尺度	結晶性能力尺度 (Gc)	表現語彙、なぞなぞ、理解語彙	言語理解 (VCI)
	読み尺度	読み書き尺度 (Grw)	言葉の読み、文の理解	—
	書き尺度		言葉の書き、文の構成	—
	算数尺度	量的知識尺度 (Gq)	数的推論、計算	—
		処理速度 (Gs)		処理速度 (PSI)
		反応・判断速度 (Gt)		—
		聴覚処理 (Ga)		—

KABC-II、WISC-IV検査構成

尺度	カウフマンモデル	CHCモデル	下位検査名	WISC-IV検査指標	下位検査名
認知尺度	継次処理	短期記憶尺度 (Gsm)	数唱、語の配列、手の動作	ワーキングメモリー (WMI)	数唱、語音整列 (算数)
	同時処理	視覚処理尺度 (Gv)	顔さがし、絵の統合、近道さがし、模様 の構成	知覚推理 (PRI)	積木模様、絵の概念、 行列推理、(絵の完成)
	計画尺度	流動性推理尺度 (Gf)	物語の完成、パターン 推理		
	学習尺度	長期記憶と検索 尺度 (Glr)	語の学習、語の学習 遅延	—	
習得尺度	語彙尺度	結晶性能力尺度 (Gc)	表現語彙、なぞなぞ、 理解語彙	言語理解 (VCI)	類似、単語、理解、(知識、 語の推理)
	読み尺度	読み書き尺度 (Grw)	言葉の読み、文の理 解	—	
	書き尺度		言葉の書き、文の構 成	—	
	算数尺度	量的知識尺度 (Gq)	数的推論、計算	—	
		処理速度 (Gs)		処理速度 (PSI)	符号、記号さがし、(絵 の抹消)
		反応・判断速度 (Gt)		—	
		聴覚処理 (Ga)		—	

WISC-IV検査の群指数

○言語理解(VCI)

言語を中心とした理解力、知識など。

○知覚推理(PRI)

視覚を中心とした状況の把握、理解力など。

○ワーキングメモリー(WMI)

聴覚を中心とした記憶や注意力など。

○処理速度(PSI)

作業の正確さやスピードなど。

認知処理特性を考慮した指導

継次処理型指導	同時処理型指導
段階的な教え方	全体を踏まえた教え方
部分から全体へ	全体から部分へ
順序性の重視	関連性の重視
聴覚的・言語的の手がかり	視覚的・運動的の手がかり
時間的・分析的	空間的・統合的

認知の弱さへの支援例

(安藤、Jpn.J.Learn.Disabilit. 25:431、2016)

認知力	弱い力	支援例
視覚認知	空間認知力	読んでいるところに 定規 を当てる、重要個所を 枠で囲む
	形の弁別、形の恒常性	字体、 文字の大きさ 、改行に配慮
	視覚記憶	聴覚記憶 も同時に使う
	目と手の協応	書く 時間 の確保、 10段 のノートを使う
聴覚認知	音の選択性	静かな教室
	聴覚記憶	視覚支援 (要点の板書、絵、実物を見せる)
	聞き誤り、聞き返しが多い	指示は 一つづつ する
	聞いたことが理解できない	簡明 な指示、一斉指示後に 個別にも
ワーキングメモリー	2つ以上の感覚を同時に使う	聞く時間は 手を止め 、後で書く。意味理解では 黙読 もあり。
注意、集中	時間は10～15分が限界	時間 を守る、いろいろな 活動 を組み合わせる。

認知プロセスと介入方法 (LDAAのHP)

認知の問題	認知プロセスの問題に対する介入方法
流動性知能	一つひとつの指示、一つひとつ順番をつける、分類方法の指導、明示的かつ体系的な教育、図式化した整理、問題解決法の提示。
結晶性知能	新しい情報の予備知識、語彙を増やす指導、豊富な体験学習（博物館、校外見学、興味を取り入れた学習）。
短期記憶	短く簡単な指示、繰り返し、振り返り、繰り返し学習（ひとまとまりの言葉、暗号をつける、口頭繰り返し）。
視覚処理	操作・メモの援助、図表の論文を言葉で説明する。
聴覚処理	音韻認識活動（韻、反復、歌、模倣など）、明示的かつ体系的なフォニックスの指示、視覚補助を提供する。
長期保存・検索	繰り返し学習、図式化した整理、暗号をつける、手がかりを使う、追加の練習時間を設ける。
処理速度	追加時間を与える、精度を目安に注意集中させる、流暢性を高めるためにフラッシュカードなどで練習する。

指導法の一般原則

(K-ABC解釈マニュアル、1993)

継次処理優位：

- 段階的な教え方
- 部分から全体へ
- 順序性の重視
- 聴覚的/言語的の手がかり
- 時間的
- 分析的

同時処理優位：

- 全体を踏まえた教え方
- 全体から部分へ
- 関連性の重視
- 視覚的/運動的な手がかり
- 空間的
- 統合的

認知処理様式に基づく教育的アプローチ

基本的な考え方 (K-ABC解釈マニュアル、1993)

継次処理様式に弱さがある子ども:

音読及び発音を聞いて綴ることに困難を示す。計算や文章題を解くための段階的な手続きを必要とする言語的な符号化方略に困難を示す。算数の基礎的事柄、文章題の時間的順序を記憶するのに問題が生じる。

しかし、視-空間的な技能で算数の大部分を学習でき、読みにおいても視覚的に統合して内容を理解する。

認知処理様式に基づく教育的アプローチ 基本的な考え方 (K-ABC解釈マニュアル、1993) 2

同時処理様式が優位な子ども:

初めに、教科学習において同時処理的なアプローチに基づく治療教育をする。

次に、継次処理と同時処理の両方に焦点を当てた課題を取り入れる。

すなわち、同時処理が必要な領域、教科を指導する。次に、読みや綴りや算数の一般的な教科学習を取り入れる。

認知処理様式に基づく教育的アプローチ 基本的な考え方 (K-ABC解釈マニュアル、1993) 3

同時処理様式に弱さがある子ども:

音読のための解号に比べ、綴りに困難が生じる。文章の関係を把握し、文脈を整理して全体として理解することの困難を示す。

算数においても、視-空間的全体的情報処理が弱いため、演算の概念、時間や空間関係を理解する困難が生じる。

認知処理様式に基づく教育的アプローチ 基本的な考え方 (K-ABC解釈マニュアル、1993) 4

継次処理様式が優位な子ども:

初めに、教科学習において継次処理的なアプローチに基づく治療教育をする。

次に、継次処理と同時処理の両方に焦点を当てた課題を取り入れる。

すなわち、継次処理が必要な領域、教科を指導する。次に、読みや綴りや算数の一般的な教科学習を取り入れる。

令和の日本型学校教育

令和3年1月26日 中央教育審議会答申

～全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

I. 個別最適な学び

1. **指導の個別化**: 支援が必要な子どもに効果的な指導、**特性や学習進度等**に応じて指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。
2. **学習の個別化**: 子どもの**興味・関心等**に応じて学習活動や学習課題に**取り組む機会を提供**することで最適な学習となるように調整する。

令和の日本型学校教育

令和3年1月26日 中央教育審議会答申

～全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

Ⅱ．協働的な学び

- ・探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重する。
- ・集団の中で一人ひとりのよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す。

学習内容の習熟の程度に応じた指導 に関する研究(東京都教職員研修センター紀要)

文部科学省指導要領(平成29年告示)

(4) 個に応じた指導の充実

児童が**学習内容を確実に身につける**ことができるよう、児童や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、**学習内容の習熟の程度に応じた学習**、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力(TT,小集団など)による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。

学習内容の習熟の程度に応じた指導 に関する研究

(東京都教職員研修センター紀要)

習熟の程度に応じた指導の工夫の**基本的考え方**：

・習熟の程度に著しい違いが生じた場合の効果的な学習

1) 指導体制

一斉授業の中でも、チームティーチングによる指導でも、柔軟に考える。

2) 実施時期

1単位時間、1単元、1学期間など必要に応じて。

(例) 初め、一斉。途中、習熟別。最後、一斉(基礎の押さえ)。

3) 指導の工夫

教科等の基礎・基本を確実に身につけられるように、
「**教育の7つの工夫**」を行う。

教育支援の7つの工夫(学校・教室)

(目標)

①**学習内容の工夫**…(例)興味関心に合わせる

(方法)

(A)環境の工夫

②**集団構成の工夫**…(例)人数(集団～個別)

③**学習の場の工夫**…(例)広さ、配置

(B)支援方法の工夫

④**教材/教具の工夫**…(例)わかりやすい教材
(一人ひとりの教科書)

⑤**かかわりの工夫**…(例)わかりやすい言動
(一人ひとりに合った声かけ)

⑥**提示の工夫**…(例)わかりやすい手順、計画
(一人ひとりに合った提示、手順、計画)

(評価)

⑦**成果のわかる工夫**…(例)具体的成果が見える
(教材/教具、コミュニケーション記録)

学習内容の習熟の程度に応じた指導 に関する研究(東京都教職員研修センター紀要)

指導計画:

- ・習熟の程度に違いが出ると予想される段階で習熟の程度に応じた学習集団を形成し、**固定化しない**。

習熟の評価:

- ・児童の行動観察、作品、**ペーパーテスト**、ノートやワークシートなどより**教師の評価**。
- ・児童の**自己評価**や相互評価も参考にする。
- ・**最終的な**コース選択は**児童が行う**。教師は助言する。

学習内容の習熟の程度に応じた指導 に関する研究(東京都教職員研修センター紀要)

学習活動の工夫:

- ・教材の内容や提示の仕方を変える。
 - ～複数のヒントカード、複数の補充的・発展的問題
 - ～提示のタイミング、説明の仕方
- ・学習活動を**複数計画**する。基礎的、補充的、発展的など。
- ・学習内容を**段階的**に高度化する。
- ・学習内容の活用の**場を広げる**。

学習内容の習熟の程度に応じた指導(例)

目標 (対象児)	慣用句の意味を知り、使い方を調べる。 (1つの慣用句を習得する)
授業形態:	
・一斉授業	「頭をひねる」について説明する。 例文: 国語の問題に、いい答えを探して頭をひねる。
・習熟の程度 に応じた集団	A. 補充コース ~好きな1つの慣用句について、絵や図を見て使い方を覚え、ヒントカードを見て例文を作る。 B. 通常コース ~3つの慣用句を教科書で理解し、使い方を覚え、例文を作る。 C. 発展コース ~3つの慣用句の例文を作った後、辞書を調べて新しい慣用句で例文を作る。
・一斉授業	個人で、グループで慣用句と例文を紹介する。 教師も例を板書して、説明する。 「目がない」、「先生はアイスクリームに目がない。」
・まとめ	自分が学習した慣用句、その例文を1つ書く。 (おまけ)おもしろい慣用句、例文を書く。

国語の読解力向上を目指した授業案

(東京都教職員研修センター紀要)

小学校4年の国語の授業：

単元「調べたことを知らせよう」、教材「生活を見つめて」

＜8時間の授業の中で使ったワークシートWS抜粋＞

・関心のある記事をもとにGで考えよう。

WS;1) テーマ、2) 知りたいこと、3) **予想**

・Gアンケートの結果をまとめよう。

WS;1) テーマ、2) 人数、3) **グラフや表で**

・調べて分かったことを整理しよう。

WS;1) **同じ**ところ、2) **違う**ところ、3) 思ったこと

・気づいたこと・**考えた**こと(自分の、自分達の)

学習障害の子育て

～成功のためのヒント～（IDAより）

「学習障害は**子どもの一部に過ぎない！**」

- ・家族として毎日**ともに過ごす時間**をもつ
- ・他の子どもと同じように育てる。衣類、食事、遊び
- ・子どもが**成功する活動**への参加を薦める
- ・両親、家族は**最も安全な人**となる
- ・**意思決定**に参加させ、自尊心を築く
- ・障害を活動に参加しない言い訳に使わない
- ・お手伝いを通して、**気持ちを分かち合うスキル**を学ぶ
- ・ボランティア活動に参加して、社会的スキルを育てる
- ・障害はほんの一部であると理解する情報を提供する
- ・卒業後の進路について選択肢を早くから探る。

学習障害がある成人

(NCSALL、文献レビュー、2007)

- ・LDの定義：情報処理における幅広い障害の広義な言葉。それを持つ成人は**学業成績**や**生活**に大きな影響を経験する。
- ・LDの有病率：6～21歳の**4.49%**が診断を受けている。**男子**は女子の4倍。
- ・LDの成人期：LDをもつ人の学問的困難は成人期も持続し、**予想以上に低い学業成績**で、高校卒業率が32～66%であった。
- ・LDの**雇用**：平均雇用率は70%、低賃金で昇進の機会がなく、フルタイムが少なく、失業者となる可能性が高い。家族は42.2%で貧困状態。

学習障害がある成人 2

(NCSALL、文献レビュー、2007)

・LDの**ストレス**: LDと診断されると障害を**開示**するか、決定しなければならない。失敗の**恐怖**があり、社会的接触が少なく、感情的な調整困難が多い。

○ **重要な他者**からの支援が**成功の鍵**となる。他者は家族であったり、本人を受け入れたメンター(相談者)などである。成功者は彼らを**無条件に受け入れた他者**を人生で少なくとも一人は持っていた。

・ **自己決定**: 自己決定するためには**自分の能力**を伸ばして、障害の部分を埋め合わせ、環境がつくりだす**依存のサイクル**を断ち切る必要がある。

学習障害がある成人 3

(NCSALL、文献レビュー、2007)

- ・ **計画**する能力: 願いとニーズを区別し、自分の**興味・好み・強みに合った選択**をし、弱点の領域を避け、小さな目標を達成する。
- ・ LD者の職場: 自己決定スキルを教えることが大切。職場でLDに対する**配慮**を期待するなら**開示**が必要である。しかし、障害をいつ、どのように、誰に開示するか決定しなければならないが、多くの人が秘密にする。**成功**のためには、自分の障害を受け入れ、理解して適切な配慮を求め、**自分の強みや才能を認識**し、大切にすることである。

LDがある人の併存障害 (NICHDより)

LDを持つ人の約50%が1つ以上の関連をもつ。

- ・脳の皮質系障害: 学習障害、言語障害、運動協調障害、実行機能障害 (組織/執行機能障害)

- ・注意欠陥／多動性障害

- (・自閉症スペクトラム障害)

- ・規制障害: 不安障害、うつ病、怒りのコントロールの問題、強迫性障害

- ・チック障害

- ・双極性障害

LDがある人の不安障害 (NICHDより)

・不安のある人は、不安に夢中で、情報処理が困難となり、言われたことや見ているものを理解できていないことがある。

～放置すれば、成績が低下し、社会経験が乏しくなり、薬物乱用が増える。うつ病やADHDと共存することが多い。

<不安への対策>

- リラクゼーション～深呼吸、ヨガ、筋肉弛緩など
- 十分な睡眠、栄養、運動をする
- 他の人とつながる。話す。
- 自然とつながる。散歩、ハイキング、サイクリング
- 「良い」ことに注意を払う
- 認知行動療法など

LDがある人の動機付け(NICHDより)

外因性の動機(報酬・罰)から、本質的な動機付けへ！
Deciのモチベーション理論。

1. 所属感、つながりを感じることに

学校で思いやりのある、自分の代弁者となってくれる人、
家庭で親が自分だけを見てくれる特別な時間

2. 自主性、自己決定感をもつことに

日頃から小さな選択肢を与えて決定する。家族でさまざまな問題を話し合う「家族集会の時間」を定期的に持ち、自分で考え、伝える練習をする。

3. 有能感をもつことに

慈善活動などに参加して、人を助ける思いやりを経験し、自分の「能力の島」を体験する。